

Art & Design

確かな造形力  
表現を磨く。

表現する意欲  
感覚を開放する。

メディアの有効利用  
美しく伝達する。



芸術文化学部 **美術学科**



美術学科長  
小野 環

21世紀の始まりと同時に本学美術学科が設置され、四半世紀が経ちました。その間、時代の変化とともに価値観も変容し、学科の教育体制も更新を続けてきました。現在、個の表現を探究する「制作」を軸としながらも、自らの活動を社会へ発信し、地域や他者と対話する力を養うことも重要な学びの柱となっています。

専門分野の技術や知識を習得することはもちろんですが、志を持つ人々が集い、相互に刺激を受けながら成長していく大学は、独自の磁場を持った「場所」です。底なしの情報ネットワークの中、さまざまな物事を体験する前に知ることができてしまう時代であるからこそ、逆に、実技を軸とする美術の領域においては、制作現場やフィールドに身を置くことが極めて重要です。そこでの実験の積み重ね、他者や物との対話が感覚と思考を刺激し、各自の固有な体験に根ざした表現者としての「礎」を見出していくことにつながると考えます。

瀬戸内海に面し、独自の景観や歴史的背景を持つ尾道は、コンパクトながら創作活動のフィールドとして大きな可能性を秘めています。皆さんには、この環境を活かし、多様な人々や出来事と出会いながら、自らを育ててほしいと願っています。自身の未知の可能性を信じ、美術で培った創造性ととも社会へ踏み出していける。私たちは、そんな人の育成を目指しています。



学科紹介動画はこちら



## 美術学科の入学者の受け入れの方針(アドミッション・ポリシー) 教育の理念・目的と求める学生像

美術学科の教育理念は、美術における専門家として持続的に創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材を育成することにあります。

個々の学生の美に寄せる豊かな感性を尊重しながら、実技教育を通して専門的な知識・技術を獲得させること、また、学生が相互に切磋琢磨する機会を通して、芸術文化に関する幅広い視野を身につけさせることを目的とします。その上で、作家やデザイナーとして、あるいは美術教員や学芸員等として、持続的に美術に携わることのできる人材の育成を目指しています。

このような教育理念・目的に基づき、高等学校までの学習を通して培った理解力と思考力、美術の表現力を前提とした上で、美術学科は次のような人を求めています。

- ・豊かな発想や色感を持ち、構成力、描写力などの基礎的な造形力を持つ人
- ・本学で学修を進めるために必要な基本的な知識、理解力を持つ人
- ・自らの問題意識にしたがって考え、客観的な視点を持つ意欲のある人
- ・自らの感覚や思考を、美術表現や言葉によって他者に伝える意欲のある人
- ・主体性を持って学ぶ姿勢を持ち、多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人
- ・将来的なビジョンを持ち、自らの創造性を高める意欲のある人

## 体験を踏まえて2年次からコースを選択

1年次は、基礎実技を重視して基本的な造形能力を養います。全員が共通課題として、デッサン基礎実習、彫刻実習と3つのコース課題(構成実習/日本画・油画・デザイン)を体験します。その後、各自志望コースの課題(総合基礎実習/日本画・油画・デザイン)を選択し、自己の資質と方向性を吟味します。2年次からは3つのコース(日本画・油画・デザイン)に分かれ、1年次で学んだ基礎力を踏まえて、それぞれの分野の知識や技術の修得に力を注ぎます。

美術学科では、美術における専門家として持続的な創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としています。このことを踏まえ、所定卒業単位の修得と卒業制作に加え、以下の学修成果を達成した学生に対して「学士(美術)」を授与します。

- ・美術に関連する基本的な素養を身につけ、専門分野の基礎的な知識や技術を修得し、感性を養いながら、それらを自己表現に積極的に活用することができる。
- ・広い視野で物事を捉え、課題を発見し、その解決方法を模索した上で、表現の可能性を探究することができる。
- ・美術を学んだことにより身につけた表現力や創造性を、継続的な創作活動を通して社会に発信することができる。

## 選択コース(日本画コース・油画コース・デザインコース)

1年次	デッサン基礎実習・彫刻実習・構成実習(平面・立体) 総合基礎実習(日本画・油画・デザイン)
	1年次後期にコース選択 2年次にコース確定

	日本画コース	油画コース	デザインコース
2年次	課題制作 自由制作 スケッチ旅行 動物スケッチ 人体デッサン	フィールドワーク オムニバス授業 ゼミ 展示演習 スタジオ実践 進級制作	各領域から課題を出題  グラフィックデザイン アニメーション イラストレーション 映像デザイン 環境デザイン クラフトデザイン
	課題制作 自由制作 人体デッサン	オムニバス授業 ゼミ スタジオ実践	専門領域の課題 領域間のコラボレーション課題
3年次	古美術研究演習		
	自由制作	進級制作	地域プレゼンテーション (展示発表会)
4年次	課題制作 自由制作 人体デッサン 卒業制作	スタジオ実践 研究会 ゼミ 卒業制作	自主研究制作  卒業制作

大学院	専門領域の制作および研究 (より専門的な制作や研究を行う機関として大学院が設置されています)
-----	---

### 尾道から外部へと発信

美術学科では、尾道という「場」で制作活動を行うことの可能性を最大限に活かすことを模索しています。

大学のある久山田水源地近くの静謐な環境は、個に集中し制作に打ち込むのに適しています。

また、大学近隣の豊かな自然や尾道の街並みは、多くのインスピレーションを与えてくれることでしょう。実際に、その豊かな自然環境や風景を活かした制作や、尾道の街中を実践の場とする展覧会、イベント参加等の活動、産学連携のプロジェクトや市民団体とのコラボレーション等も活発化してきています。

今後、これらの活動が一層充実し、ここでなければ創れない独自の価値を外部に発信していくことを目標としています。

### 充実した制作環境

美術学科には、日本画、油画、デザインそれぞれの領域の制作に適したアトリエがあります。学生たちは潤沢なスペースでじっくりと専門の制作に取り組むことができます。

それ以外に、大人数での実習に適した大空間を持つ石膏室や、各種工房施設があります（CG、写真、彫刻、金工、木工、塗装、陶芸、版画）。各工房ではそれぞれの素材についての専門的な技術を学ぶことができます。また、学生個々の自主制作でコースの垣根を越えて工房施設を活用することができます。



#### CG実習室

Mac mini 20台と色彩確認に優れたモニターを常設した実習室です。レーザープリンター、大判プロッター、3Dプリンター、製本機、レーザーカッターなどを設置。グラフィックデザインを制作したり、映像編集することに特化した充実した設備です。



#### 写真スタジオ

4Kビデオカメラやデジタル一眼カメラ、照明設備、録音設備などが揃った撮影・録音スタジオ。デジタルに対応した機材を導入し、撮影技術を学びます。制作した作品を撮影することもできるなど、多様な利用が可能な工房です。



#### 彫刻実習室

2つの教室と屋根付きテラスに加え、広々とした屋外制作スペースがあります。屋内では彫塑や造形制作を、屋外では石彫などを行います。自由素材の研究の場としての利用も可能です。



#### 塗装実習室

各種スプレー塗装に対応した大型水洗ブース、乾燥炉はもとより、漆塗りのための塗部屋、漆室を新たに備え、塗装環境をさらに充実させています。



#### 金工実習室

金属加工の機材が充実しており、天井高のある作業スペースで音も気にせず没頭して造形制作を行うことができます。樹脂を使うなど金属以外の素材による大きめの造形制作も可能です。



#### 陶芸実習室

陶芸用電気釜2基、電動ろくろ10台を備えており、器からオブジェまで、幅広い制作が可能です。



#### 木工実習室

大型木材加工用の機材が揃っている機械室と、作業スペースで構成されています。器、家具、オブジェ、絵画のためのパネルや額作りなど、木質素材をベースとした多目的な利用が可能です。



#### 版画実習室

銅版画、木版画、リトグラフ、シルクスクリーンの4版種すべてに対応可能な充実した工房です。特に大型銅版画用プレス機は、西日本の美術系大学でも最大級の機材を設置しています。



施設の様子を

Google ストリートビューでご覧になれます



日本画コースは、基本的な造形感覚、材料技法を習得し、現代の作家として個性豊かに創造し表現できることを目指しています。これからの作家活動や美術に携わる者として、最も重要な核となる内容の教育を行います。

### 日本画実習Ⅰ(2年次)

植物、静物、動物、風景、人物等を対象として幅広く課題を設定し、日本画材料の特性を学び、個性を活かしながら表現力を育成します。自らの絵画観をもとに自由な発想で画面に向かう意識を育てます。また箔や裏打ち技法の特別講習を行い、表現の可能性を学びます。

### 日本画実習Ⅱ(3年次)

個々の自由なテーマでの制作に取り組み、個性的な表現世界の発展を目指します。古典作品の模写を課して、色彩や空間に対する認識を一層深めます。また古美術研究演習では、事前学習を踏まえ京都・奈良を訪れます。

### 日本画実習Ⅲ(4年次)

今まで培った表現を前提に自由なテーマをより主観的に咀嚼し、研究制作を続け、より高度な創造表現を目指します。また直接作品に触れることを目的として美術館などを訪れ、美の本質に根ざした表現を模索させ感性を育てます。4年間の研究成果として卒業制作展を地域社会に向けて発表します。



森雅治 〈冬ざれ〉 4年次卒業制作 麻紙、岩絵具、膠、箔 181.8×227.3cm



板垣真子 3年次風景制作  
麻紙、岩絵具、膠 116.7×80.3cm



市口奈奈 2年次動物制作  
麻紙、岩絵具、膠 116.7×80.3cm



児玉萌々果 4年次人物制作  
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



高蒼治 2年次風景制作  
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



児玉萌々果 〈ときめき〉 4年次卒業制作 麻紙、岩絵具、膠 181.8×227.3cm



齋藤小雪  
2年次絹本制作  
絵絹、岩絵具、膠  
65.2×53cm



梶原楓  
1年次ユリ制作  
麻紙、岩絵具、膠  
65.2×53cm



小林蓮姫 3年次自由制作  
麻紙、岩絵具、膠、箔 116.7×80.3cm



田上結芽 3年次風景制作  
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



家永彩花 2年次動物制作  
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



松本さと 2年次静物制作  
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



石川菜摘 3年次風景制作 麻紙、岩絵具、膠 72.7×116.7cm



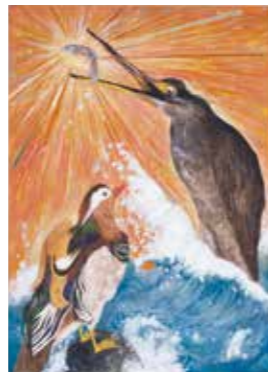
竹村花菜 3年次古典模写制作  
美濃紙、岩絵具、膠 23×23.6cm



桑柚希 4年次自由制作 麻紙、岩絵具、膠 112×162cm



板垣真子 3年次人物制作 麻紙、岩絵具、膠 91×116.7cm



池田希輝 1年次剥製制作  
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



東海林春希 1年次剥製制作  
麻紙、岩絵具、膠 91×72.7cm



田所三和 3年次人物制作  
麻紙、岩絵具、膠 116.7×91cm



齋藤小雪 2年次人物制作 麻紙、岩絵具、膠 91×116.7cm



大学院美術研究科日本画専攻2年  
上野 ひろ

私は「モチーフと模様の融合」をテーマに、あたたかくまどろむような画面を目指して制作しています。

学部では課題に追われる日々の中で、感覚的にたどり着いた表現も多くありましたが、その過程で自分の好きなものや描きたいものと向き合うようになりました。描く人物には常に自身の感情を重ねています。その感情が鑑賞者に追体験されるならば、それは作品としてひとつの答えなのではないかと考えています。卒業制作では、憂いを含みながらも上を向く人物像を描きました。首が伸びるような緊張感の中に、痛みや悲しさだけでなく、大切なものへ思いを馳せる切なさや愛しさ、そして希望の気配を込めました。

修士課程では制作の自由度が広がり、公募展やグループ展を通して自ら作品を展示する機会も増えました。額装し照明の下に置かれた作品と向き合う経験は、自身の努力を実感させると共に身の引き締まる思いを与えてくれます。専門的な学びの中で制作を言語化しながら、自分にとって宝物となるような作品を追求しています。



〈ペンギン〉  
91×116.7cm  
3年次動物制作  
2022

水面と水中という二つの領域を描き、それぞれ異なる質感や画材表現を追求しました。



〈無数の星へ〉  
227.3×162cm  
卒業制作  
2025

小型プラネタリウムの光をイメージし、無数の星に包まれるような空間を目指しました。

〈テーブルのなか〉  
130.3×194cm  
後期自由制作  
2026

モチーフと人物を、まどろむような空気の中で模様と織り交ぜながら描きました。





油画コースは、絵画表現を軸に、各自が創作と生きることの可能性を主体的に追求していく姿勢を培うことを目標としています。

個々の制作の場を起点に、多様な学びや対話機会を作り出すことで、自己の興味・関心を模索し、課題を立て、自ら取り組む姿勢を養うと同時に、制作の場を共有することによって相互刺激の場を創り出します。

### 油画実習Ⅰ（2年次）

個々の学生が自身の資質を発掘し、表現の可能性を見出す機会として、各担当教員の視座を反映した多彩な実習やゼミ、およびスタジオ実践を並行して行なっていきます。また、同級生や他学年、教員、ゲストスピーカーとの意見交換を通じ、自身の考えを自覚的に発展させていく場も作り出します。

### 油画実習Ⅱ（3年次）

3年次では自身の表現内容を模索すると同時に、個々の表現にふさわしい形式、描画材料も実験しながら、制作を行います。後期最後の進級制作ではその試みを大学美術館で展示します。また、古美術研究は作品鑑賞体験を自身の制作の糧とする機会になります。

### 油画実習Ⅲ・卒業制作（4年次）

4年次はこれまでの自主制作で見つけた課題を踏まえて、それぞれのリアリティを存分に追求していく時間となります。その成果は卒業制作として尾道市立美術館で開催される卒業制作展で展示されます。



中部安梨 〈Autonomous Forms〉 修了制作 インスタレーション PLA サイズ可変



西原なずな 〈Doragon sword〉 修了制作 キャンバス、油彩、毛糸 970×2910mm



上田俊 〈鳩と誤解〉 キャンバス、油彩 1303×1620mm



馬庭匠 〈ナメクジ馬〉 木製パネル、油彩 930×1820mm



小川裕美 〈融異〉 木材、油彩 680×990×307mm



羽生なつき 〈あさ、ゆき〉 卒業制作 インスタレーションビュー 油彩、キャンバス/陶土



松崎蓮 〈天来〉、〈寓意(習作)〉、〈水神〉 卒業制作 インスタレーションビュー 油彩、キャンバス、木材、鉄



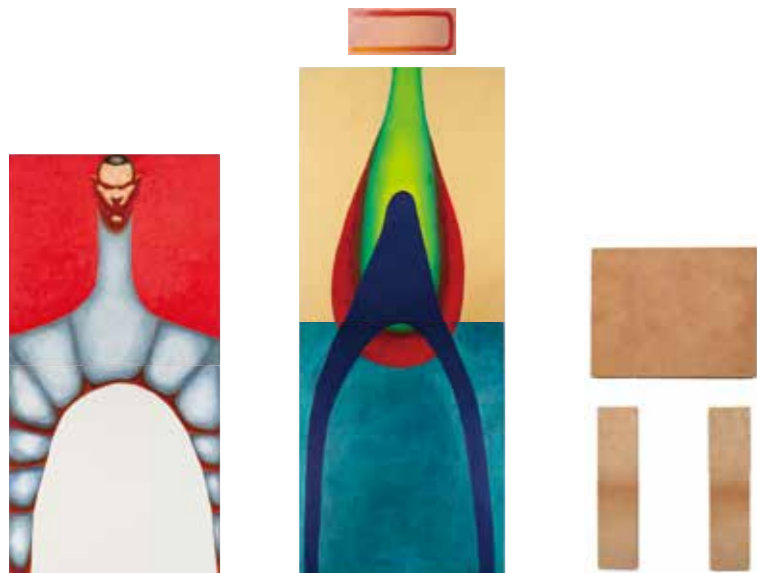
勝俣佑菜 〈祖父の庭〉 卒業制作 パネル、油彩、オイルクレパス 970×1303mm



濱田菜奈 〈軌跡〉 卒業制作 インスタレーションビュー 油彩、キャンバス



岡本紗弥 〈咀嚼と栄養〉 卒業制作 インスタレーションビュー 木材、カーボン紙、糸、アクリル



福原陽輝 3年次進級制作 左〈untitled〉キャンバス、油彩 2334×1167mm  
中央〈untitled〉キャンバス、油彩 3786×1303mm 右〈untitled〉キャンバス、油彩 1341×652mm



有川愛華 2年次進級制作  
パネル、角材、アクリル絵の具、ニス 200×200mm



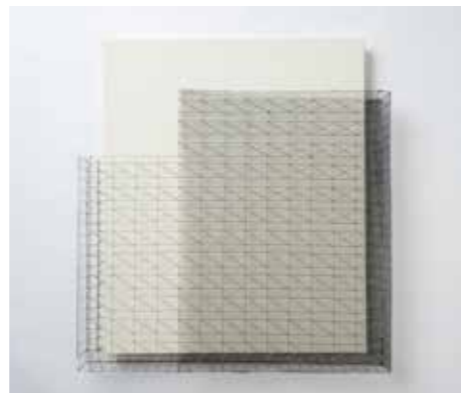
中野未歩 1年次ドローイングによる探究  
紙、鉛筆、アクリル他 各1167×910mm



近藤美佳耶 〈intertwine (インタートワイン)〉 2年次進級制作  
321×27×19mm 385×235×265mm  
タイツ、スプレー塗料、糸、プラスチックボックス



大川陽菜 1年次課題制作(構成実習) 鉛筆、画用紙



小林美由記 〈浮かぶ層〉 3年次進級制作  
ステンレス、キャンバス、布 710×730×75mm



中村美月 〈このままでよろしいですか〉 2年次自主制作  
油彩、キャンバス 各652×503mm



吉原諒汰朗 1年次課題制作  
(自画像) 420×550mm



美術学科油画コース4年  
宮宇地 春人

私は、マインドマップの絵画化を軸に、作詞作曲や映像表現を組み合わせたインスタレーション作品を制作しています。連続する思考が複数の線として現れるマインドマップを自己表現のための絵として捉えており、その内容をもとに行う歌詞や映像の制作は、未整理のマッピングから要素を選び取り、一つの流れに束ねる工程だと考えています。

複数のメディアを用いる私の表現は、大学内外で多様な手法に挑戦してきた経験の中で培われました。学部1年次から独自の手法を模索し、自画像課題ではカットバンを用い、油画実習では迷路を絵画に取り入れるなど、実験的な制作を行ってきました。

また、尾道の浄泉寺で行われたコンサートのライブペインティングでは、二人で両面から砂鉄を用いて絵を描き、廿日市市のアートギャラリーでの交流プログラムでは、マインドマップ・映像・音楽を組み合わせた展示を行い、現在の制作にも繋がるメディアへ挑戦する機会となりました。

このように表現手法を更新し続けながらも、それぞれの経験を自身の芸術活動の成長へと結びつけることができた背景には、教員の方々が学内外の展示や活動に会場し、実際に作品を見たうえで詳細なフィードバックを共有し、さらに対話の時間を十分に確保してくださったことがあります。



『坂田明SOS in 尾道』での  
ライブペインティング風景  
浄泉寺  
Photo by Sachi Kohara



マインドマップドローイング No.1  
紙にインクジェットプリント、鉛筆  
2025



Pink De Tea Time 2025 成果発表展における展示風景  
アートギャラリーミヤウチ

デザインコースでは、各研究室の専門領域を基本としながらも、興味のあることは、領域を越えた指導を受けることが可能なカリキュラム編成となっています。これにより幅広い視野によるデザインの視点から表現できる能力を培うことができます。



### デザイン実習Ⅰ(2年次)

2年次前期は選択課題に取り組み、自分の興味関心がどの分野にあるかを見極める期間とします。2年次後期より専門領域に分かれて基礎を学びます。

- ・広告やパッケージデザインを軸としたグラフィック表現の実践的研究
- ・文字、記号、図などの視覚情報の伝達における効果的なレイアウトや表現の研究
- ・イラストレーションの展開、アニメーションによる映像デザインの研究
- ・モーショングラフィック、実写などの映像デザインの研究
- ・テーマ設定と造形表現を通じた場のデザインの研究
- ・木工、漆芸(塗装)を主とした器、家具などの自然素材によるクラフトデザインの研究

### デザイン実習Ⅱ(3年次)

2年次で学んだ基礎をもとに各領域の課題に取り組み、さらに各領域が連携したコラボレーション課題で視野を広げ表現力を身につけます。後期に取り組む地域プレゼンテーション課題では3年次のまとめとして大学美術館にて展示、しまなみ交流館では発表を行います。

### デザイン実習Ⅲ・卒業制作(4年次)

デザイン実習Ⅲでは自身で自由なテーマを設定し制作を行います。卒業制作では4年間の集大成として、その成果を尾道市立美術館にて展示・発表します。



稲澤楓 〈一茶風月〉 4年次卒業制作 ブランディングデザイン



石井遥 〈電球〉 4年次卒業制作 立体



田中善 〈RAIJIN FUZIN〉 4年次卒業制作 平面 映像



垣原凜々子 〈おのみち海の紅茶カップ〉 3年次デザイン×私のまち 第23回地域プレゼンテーション



勝木凜 〈消えたあとに残るもの〉 4年次卒業制作 映像



大場愛菜 〈インテリアエレメント〉 3年次デザイン実習II



村上桃花 〈金魚図鑑〉 4年次卒業制作 平面



岡本佳奈 〈ぶれいず! やまぐち〉 3年次デザイン×私のまち 第23回地域プレゼンテーション

春摘桃花 〈テーブルウェア〉  
2年次デザイン実習I鳥越可也 〈ふでのご物語〉  
3年次デザイン×私のまち  
第23回地域プレゼンテーション藤原咲朱 〈コミュニケーションロゴ立体課題〉  
3年次デザイン実習II

玉田真里夏 〈装丁〉 4年次デザイン実習III

北村春菜 〈GHOOST TAXI〉  
4年次卒業制作 デジタルゲーム

梅本翔陸 〈ギフト課題〉 2年次デザイン実習I

富永滯 〈3文字コミュニケーション課題〉  
2年次デザイン実習I

春摘桃花 〈3Dプリント〉 2年次デザイン実習I



松井天伽(左)、西森柗人(右) 〈ランプシェード〉 1年次構成実習



小西ひかる(左上、真ん中)、松本春花(右上、右真ん中)、霜出百葉(左真ん中)、古閑愛七(左下、右下) 〈おどろき盤〉 1年次デッサン基礎実習



井川愛茄 〈総合基礎実習〉 1年次総合基礎実習



永井杏那 〈ハンガー課題〉 1年次構成実習



高砂遥 〈ロゴ課題〉 1年次構成実習



美術学科デザインコース3年  
イグナチワ ウリヤナ

私は元々ものづくりが好きで、幼い頃から粘土やコラージュに親しんできました。また、外国語にも関心があり、特に日本語に興味を持っていました。東京の語学学校で学ぶ中でデザインに興味を持つようになり、都市の中で人と情報、モノが密接に関わり合っていることに強い印象を受けました。その多様さに惹かれ、ただ観察するのではなく、その考え方を理解し、自分の視点を視覚表現として伝えたいと思うようになりました。

本学ではグラフィック・アドバタイジング領域を選択しましたが、平面・立体を問わず幅広い分野に触れながら学べる点にも大きな魅力を感じています。学び始めてからは、そうした環境の中で表現の可能性を広げてきました。パソコン上での制作にとどまらず、実際に手を動かして素材と対話できる点も本学の魅力の一つです。特に金属加工や3Dプリンターを用いた課題では、デジタルでの造形だけでなく、その後の研磨や適切な素材による塗装といった実技的なプロセスの重要性を実感しました。

グラフィックデザインの演習では多様な課題に取り組みましたが、特に印象深かったのは「連動課題」(フォト&タイポグラフィ)と「ギフト課題」(パッケージデザイン)です。表現の自由度が高く、視覚的な構造と文字表現の関係について深く考える重要なきっかけとなりました。これらの学びを通して、デザインとは単に美しさを追求するものではなく、「誰に何を伝えるか」を意識することが重要であると実感しました。

尾道市立大学で学ぶ中で、自分の感覚やこれまで培ってきた文化的背景と、日本のデザインの考え方を結びつけながら表現を深められる点に大きな魅力を感じています。留学生としての視点を活かし、同級生の作品やその発想から多くの刺激や気づきを得ており、それが成長の原動力となっています。そうした経験を通して、自分らしさを大切にしながら、現代に響く表現を追求していきたいと考えています。



〈イメージフォルム(铸造)〉  
2年次デザイン実習I



大学美術館展示会  
広報デザイン



〈連動課題〉 2年次デザイン実習I



〈連動課題〉 2年次デザイン実習I

美術学科教員はキャンパス内で創作・研究を行っています。

教員の研究室は美術学科棟の学生アトリエスペースの、廊下をはさんだ向かい側にあり、学生は多彩な専門領域で活動している教員の創作・研究現場を日常的に訪れることができます。

また、コース制をとっていることから、多くの創作・研究が共存していますが、各専門領域の垣根が低く、異なる領域の学生・教員間の対話が頻繁に行われているところも本学の美術学科の大きな特徴と言えるでしょう。



教授（日本画コース）

## 中村 譲

1964年 香川県高松市生まれ  
 1989年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業  
 1991年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了  
 1993年 東京藝術大学大学院美術研究科後期博士課程  
 絵画日本画専攻単位取得退学  
 1994年 東京藝術大学日本画科非常勤講師（～2001年）  
 [公募展]  
 1994年 再興第79回「院展」初入選／東京都美術館  
 1995年 第50回「春の院展」初入選／日本橋三越本店  
 2001年 第56回「春の院展」奨励賞（以後2007,08受賞）  
 2003年 再興第88回「院展」奨励賞（以後2004受賞）  
 2006年 再興第91回「院展」日本美術院賞（大観賞）  
 （以後2008年受賞、同足立美術館賞）  
 2013年 第68回「春の院展」春の足立美術館賞  
 [個展、グループ展]  
 1994年 「有芽の会」展 法務大臣賞／有楽町西武  
 2001年 「更生保護」（法務省保護局月刊誌）  
 担当月表紙絵個展／ナカジマアート／銀座  
 2007年 中村譲日本画展「Favorite scene」高松天満屋  
 （以後百貨店開催、2010,2012,2014,2019,2022,2023,2024）  
 香川県文化芸術選奨表彰  
 2017年 小林和作賞  
 2022年 小林和作賞  
 現在 日本美術院同人、香川県文化芸術振興審議委員



〈出漁の頃〉紙本彩色 180×225cm 2025



教授（日本画コース）

## 鈴木 恵麻

1997年 東京藝術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業  
 1999年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程日本画専攻修了  
 [画歴]  
 1999年 第54回「春の院展」初入選  
 2001年 「有芽の会」全国更生保護婦人連盟会長賞  
 2002年 「有芽の会」法務大臣賞 再興第87回「院展」初入選  
 2004年 第59回「春の院展」奨励賞  
 （以後2016、2018、2020、2021、2024、2025受賞）  
 2007年 再興第92回「院展」奨励賞  
 （以後2009、2019、2020、2021、2022、2023、2025受賞）  
 2009年 再興第94回「院展」天心記念茨城賞  
 2018年 第73回「春の院展」春季展賞 日本美術院奨学金  
 [個展、グループ展]  
 2004年 個展「レスポワール展」／銀座スルガ台画廊  
 2009年 個展 EMA作品展—鈴木恵麻作品展—／そごう横浜（2011年）  
 2013年 個展「更生保護」（法務省保護局月刊誌）担当月表紙絵個展／  
 ナカジマアート  
 2021年 個展「鈴木恵麻展」／尾道市立大学美術館  
 2022年 箱根芦ノ湖成川美術館コレクション展／茨城天心記念五浦美術館  
 2023年 セレネ美術館開館30年・宇奈月温泉開湯100年記念  
 「日本画の新星たち展」／セレネ美術館  
 現在 日本美術院 特待



〈花想い〉紙本彩色 211.4×166.5cm 2025



准教授（日本画コース）

## 山梨 千果子

2005年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科卒業  
 2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程（日本画）修了  
 2011年 尾道市立大学MOU尾道市立大学美術館 スタッフ  
 2013年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助手（～'18年）  
 [受賞・展覧会歴]  
 2005年 第7回広島県岡山県大学美術系卒業制作選抜展（ふくやま美術館／広島）  
 2007年 第9回広島県岡山県大学美術系卒業制作選抜展特別賞（ふくやま美術館／広島）  
 修了制作「ナツしたく」・修了模写「法隆寺金堂第十一壁画（部分）模写」大学買上賞  
 第62回春の院展「涼音 すずおと」初入選（日本橋三越／東京・広島ほか巡回）  
 現代の中国画と日本画展（グループ展）（ふくやま美術館／広島）  
 2008年 HiBi 2008（グループ展）（MOU尾道市立大学美術館／尾道／'10、'12、'14年）  
 2009年 再興第99回院展「聞こえるよ」初入選（東京都美術館／東京・広島ほか巡回）  
 2010年 In Focus 展（グループ展）（MOU尾道市立大学美術館／尾道）  
 2012年 揺籃展（グループ展）（MOU尾道市立大学美術館／尾道／'15、'18年）  
 2014年 ツナガルケシキ（グループ展）（大三島美術館／愛媛）  
 2016年 第4回郷さくら美術館桜花賞展（郷さくら美術館／東京）  
 2017年 再興第102院展「なつのおと」奨励賞（東京都美術館／東京・広島ほか巡回）  
 はなの日（個展）（かわうそ画廊／東京）  
 2018年 第73回春の院展「みえる みられる」奨励賞（日本橋三越／東京・広島ほか巡回）  
 2021年 尾道市立大学日本画展（グループ展）（小津和紙ギャラリー／東京）  
 2022年 第77回春の院展「節季」奨励賞（日本橋三越／東京・広島ほか巡回）  
 現在 日本美術院 院友



〈ハルノニオイ〉麻紙、岩絵具、箔、膠 144×69cm 2025



教授(油画コース)

## 小野 環

1973年 北海道函館市生まれ  
 1996年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業  
 1998年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻修了  
 1999年 東京藝術大学油画科非常勤講師(～2001年)  
 現在 AIR Onomichi代表、NPO法人尾道空き家再生プロジェクト副代表理事  
 [個展]

2000年 「キツネ作戦」/フタバ画廊/東京  
 2002年 「小野環展」/appel/東京  
 2005年 「gardens」/ギャラリーそわか/京都  
 2008年 「gardens 植木鉢の冒険」/ふくやま美術館/福山  
 2010年 「足下の辺境」/尾道市立大学美術館/尾道  
 2013年 「ユートピアの迷子石」/Utopiana/ジュネーブ※  
 2021年 「Re-edit」/光明寺會館/尾道  
 2025年 「百蝙蝠」/itiSETOUCHI/福山  
 [グループ展]  
 2004年 VOCA 展/上野の森美術館/東京  
 2007年 AIR Onomichi/尾道山手地区/尾道※(2011年※)  
 2008年 tina.b プラハ国際現代芸術祭2008/プラハ市※  
 2012年 UTOPIA ～何処にもない場所～/百島/尾道※(2013,14年)  
 2018年 「複数形の世界のはじまりに」/東京都美術館/東京  
 2019年 ONLY CONNECT OSAKA/クリエイティブセンター大阪/大阪  
 2021年 第24回岡本太郎現代美術賞展 特別賞/川崎市岡本太郎美術館/川崎  
 2022年 「いにしよによる一断片たちの囁きに耳を」/瀬戸内海歴史民俗資料館/香川  
 2026年 「Salt Tangles / Far Shores Near」Objectifs/シンガポール  
 (※作家 三上清仁とのユニット)



〈百蝙蝠〉 サイトスペシフィックインスタレーション /  
 iti SETOUCHI



准教授(油画コース)

## 橋野 仁史

1982年 熊本県生まれ  
 2007年 尾道市立大学大学院美術研究科修士課程(油画)修了  
 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助手(～'17年)  
 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 助教(～'18年)  
 2017年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 講師(～'22年)  
 [主な展覧会]

2007年 第81回国展/以後毎年  
 2008年 第82回国展 絵画部奨励賞  
 尾道からの「3人展」/アートガーデン/岡山  
 2009年 国展 受賞作家展/井上画廊/東京  
 2013年 Gg 展/ふくやま美術館/福山/以後毎年  
 2014年 第88回国展 会友賞、準会員推挙  
 2015年 国展 受賞作家展/銀座アートホール/東京  
 2017年 個展 橋野仁史絵画展-Fog-/福山天満屋/福山/'19年  
 2018年 Gg2 展/福山天満屋/福山/以後毎年  
 2019年 再考 人間と自然/広島県立美術館/広島  
 2021年 中曾智子・橋野仁史2人展-風薫る-/GALLERY森・hako/福山  
 個展 橋野仁史絵画展-光景-/福山天満屋/福山  
 meet a new /福山天満屋/福山/'23年、'24年  
 2022年 3view/倉敷天満屋/倉敷  
 2025年 個展 橋野仁史絵画展-ほのか-/福山天満屋/福山  
 2026年 国展100回記念企画 NEXT GEN/国立新美術館/六本木



〈UNTITLED〉 油彩、キャンバス 162×194cm 2025



教授(油画コース)

## 稲川 豊

1974年 東京生まれ  
 1997年 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業  
 2004年 CHELSEA COLLEGE OF ART AND DESIGN,  
 ロンドン, MA FINE ART 修了

2007-09年 文化庁新進芸術家海外留学制度2年派遣/ロンドン/イギリス  
 [個展]  
 2007年 “Yutaka Inagawa Solo show”/New Art Center/ニューヨーク  
 2008年 “Nonplace overlay”/Bodhi Gallery/ロンドン  
 2009年 “Sensory Cocktails”/Gallery Zandari/ソウル・韓国  
 “Crazytokyo”/Galerie Sutry, Coye-la-Foret/フランス  
 2014～15年 “The invasion of Cyberspace”/Unit 24 Gallery/ロンドン  
 2015年 OTAK JEPUN | Yutaka Inagawa / Lorong Kekabu / クアラルンプール  
 2022年 符と思う | eASY mECHANISM / MOU 尾道市立大学美術館 / 尾道  
 2023年 “Fluxosphere” / UUH OOH / 香港  
 2023年 “Speak Spindle つむ・くち”(2023) / Comma Space / シンガポール  
 [グループ展]  
 2007年 “Trajectories” / The Agency / ロンドン  
 2007年 “The 8th SHINSAIMDANG Art Festival” / Gangueng Museum / 韓国  
 2008年 “Cosmopolis” / Pipy Houldsworth Gallery / ロンドン  
 2017年 Floating Urban Slime / Sublime / アートギャラリーミヤウチ / 広島  
 2018年 I Say Yesterday, You Hear Tomorrow. Visions from Japan / Gallerie delle Prigioni / トレヴィーゾ / イタリア  
 2019年 ONLY CONNECT OSAKA / クリエイティブセンター大阪 / 大阪  
 2019年 Another Pair of Eyes (企画・出品) / Duddell's / 香港  
 [展覧会企画(キュレーション)]  
 2024年 奇数ソックスとノード / Nurturing Nodes in the Nook of an Odd Sock / アートギャラリーミヤウチ / 広島



インスタレーション・ビュー 符と思う | eASY mECHANISM  
 / MOU 尾道市立大学美術館 2022



准教授(油画コース)

## 西村 有未

1989年 東京都生まれ  
 2014年 東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻 卒業  
 2016年 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画) 修了  
 2019年 京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程美術専攻研究領域油画  
 修了・博士(美術)学位取得

[個展]  
 2022年 「図形的登場人物と雪娘 シーズン2」FINCH ARTS (京都)  
 2023年 「呼水(図形的登場人物たち)」Ritsuki Fujisaki Gallery (東京)  
 「犬石物語 (I still live there)」FINCH ARTS (京都)  
 2025年 「絵でそれらを生む物語の態度」 半兵衛麩五条ビル2F ホールKeiryu (京都)  
 2026年 「滲出液とかさぶた」 Gallery & Restaurant 舞台裏 (東京)  
 [グループ展]  
 2010年 「現役美大生の現代美術展-Produced by X氏」Kaikai Kiki gallery,  
 Hidari Zingaro (東京)  
 2016年 「第3回CAF 賞入選作品展」3331 Arts Chiyoda (東京)  
 2021年 「絵画の見かた reprise」/ K Contemporary (東京)  
 2021年 「Encounters in Parallel」ANB Tokyo (東京)  
 2021年 「猫とマチエール」MtK Contemporary Art (京都)  
 2022年 「Kyoto Art for Tomorrow 2022 -京都府新鋭選抜展-」京都文化博物館(京都)  
 2024年 「岸む音 / 際の上 Murmuring Shores / On the Brink」  
 MOU 尾道市立大学美術館(尾道)  
 「植物の途中-A Secret Life」彫刻家の家(香川)  
 「Salt Tangles / Far Shores Near」Objectifs - Centre for Photography & Film (シンガポール)

[コレクション] 山梨学院大学、高橋龍太郎コレクション、KANKURO UESHIMA COLLECTION  
 [ワークショップ] 2019年 練馬区立美術館  
 [賞ほか] 三菱商事アートゲートプログラム2013 奨学生、第3回CAF 賞保坂健二朗賞



インスタレーション・ビュー / 「絵でそれらを生む物語の態度」  
 半兵衛麩五条ビル2F ホールKeiryu (京都) 2025



教授(デザインコース)

## 林 宏

1967年 大阪生まれ  
 1994年 東京藝術大学美術学部工芸科 卒業  
 1996年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程漆芸専攻 修了  
 2025年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 教授  
 【活動歴】  
 2005年 日本文化財漆協会 常任理事  
 2011年 ナチュラルマテリアルプロジェクト 循環型自然素材の開発及び研究  
 2013年 漆芸を支える道具の調査研究  
 作品収蔵 東京藝術大学 フィラデルフィア美術館

【展覧会歴】

2012年 東京藝術大学創立125周年記念事業「漆芸 軌跡と未来」招待出品(東京藝術大学)  
 ナチュラルマテリアルプロジェクト(六本木・ペイン)  
 器奏天回茶展(うおがし銘茶 築地新店)  
 日本のいろ展2012(松岡山東慶寺 白蓮舎)  
 2013年 個展 林宏 漆の器展(栃木 アルゴノート)  
 japanin vari [Natural material projects] (フィンランド ヘルシンキ)  
 杵木呂の会展(新宿 伊勢丹)、漆芸二人展(瑞玉ギャラリー 東京)  
 2015年 草木と漆の器展(代官山 無垢里)、日本のいろ 展(松岡山東慶寺ギャラリー)  
 2016年 草木と漆の器展(代官山 無垢里)  
 2017年 杵木呂の会展(松岡山東慶寺ギャラリー)  
 2018年 陶と漆の器展(代官山無垢里)  
 2019年 感覚のかたち展(MOU尾道市立大学美術館)、陶と漆の器展(日本橋三越)  
 2022年 はじまりのかたち展(MOU尾道市立大学美術館)



〈耳付漆皿〉 W320×D285×H15  
 ブラックチェリー、漆 2019

Hayashi Hiroshi Urushi Design  
<https://hayashihiroshi.net>

尾道市立大学 デザインコース クラフトデザイン  
<https://onomichi-craftdesign.myportfolio.com>



准教授(デザインコース)

## 井村 和寛

1979年 三重県鳥羽市生まれ  
 2003年 愛知県立芸術大学 美術学部デザイン・工芸科 卒業  
 2007年 愛知県立芸術大学 美術研究科デザイン専攻 修了  
 2008年 デザイン事務所「ID PRODUCTION」設立  
 2010年 愛知県立芸術大学 美術学部デザイン・工芸科 非常勤講師  
 2011年 瀬戸アートスクール画案 設立  
 2011年 アートギャラリー「GALLERY ID」設立  
 2026年 尾道市立大学 芸術文化学部美術学科 准教授  
 【活動歴】

2006年 井村和寛イラストレーション展「materials」「portraits」(アトスペースA-1/名古屋)

2007年 井村和寛 展「金属への追憶」(愛知県立芸術大学サテライトギャラリー直指天/名古屋)

2007年 井村和寛 展「Fe」(愛知芸術文化センター アトスペースX/名古屋)

2011年 素描展(愛知芸術文化センター アトスペース/名古屋) (~2020)

2015年 愛知県立芸術大学オペラ公演舞台美術制作プロジェクト参加 (~2025)

2020年 江戸川乱歩旧居跡記念碑建立プロジェクト参加  
 記念碑デザイン担当(名古屋栄)



〈江戸川乱歩旧居跡記念碑〉 石碑デザイン・肖像画 2020 写真提供:共同通信社



〈千支のイラストレーション「巳」〉 透明水彩・アルシユ紙 2025



准教授(デザインコース)

## 勝目 祥二

2000年 東京藝術大学美術学部工芸科 卒業  
 2002年 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程鍍金専攻 修了  
 2003年 インハウスデザイナーおよびフリーランス(~2025)  
 【業績】

2003-25年  
 ボトル・パッケージデザイン/広告・冊子・グラフィックデザイン  
 インテリア・プロダクトデザイン/空間デザイン  
 アートディレクション/ブランディング等に関するデザイン業務  
 日本パッケージデザイン大賞 化粧品香水部門 銀賞  
 日本パッケージデザイン大賞 VI部門賞  
 日本パッケージデザイン大賞 ヘアケア&ヘルス部門入賞等

【活動歴】

2003年 「KYOTO」(アートギャラリー Live.TV)

2005年 愛・地球博 BigFamily フェスタ(六本木ヒルズ 40階)

2012年 DESIGNTIDE TOKYO(六本木ミッドタウン東京)

2013年 「Maison & Objet」(フランス国際展示場)

「VIAデザイン展」(フランス・パリ VIA ギャラリー)

桐山登士樹が選ぶ注目デザイナー選出(JDN)

2014年 「TOKYO STARTUP GATEWAY」セミファイナリスト選出(東京都主催)

2015年 「薄膜状のマイクロナノスケール構造体による動作検証」研究(国立研究開発法人 産総研)

2016年 「Floating Urban Slime/Sublime」(アートギャラリーミヤウチ)

2017年 「マルチマテリアル研究拠点第2回シンポジウム」登壇(東北大学産学連携先端材料研究開発センター)

2020年 「FTCビジネスアイデア事業化プログラム」採択(福島イノベーション創出プラットフォーム事業)

2023年 「FTCビジネスアイデア事業化プログラム」採択(福島イノベーション創出プラットフォーム事業)

2025年 「DESIGNART TOKYO 2025」(日比谷OKUROJI)

2026年 「TOKYO CITY VIEW×MONOWIT」(六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー)



〈Lactea〉 W420×D420×H500 真鍮、Inorganic EL 2012



准教授(デザインコース)

## 伊藤 麻子

2005年 愛知県立芸術大学 美術学部 デザイン工芸科 卒業  
 株式会社GKグラフィックス勤務(~2008)

2011年 東邦高等学校 美術科 非常勤講師(~2012)

2012年 大垣女子短期大学 デザイン美術学科 講師(~2017)

【活動歴】

2005年~2008年

(デザイン制作会社勤務中の実務)

果汁飲料 PETボトル パッケージデザイン

缶コーヒー パッケージデザイン

紅茶ギフト パッケージデザイン

化粧品 パッケージデザイン

文具パッケージデザイン 他

2009年~

「skin sweets」パッケージデザイン

展示会「二人ノ図鑑展」(2014, 表参道)

展示会「感覚のかたち」(2019, デザイン教員展)

緑茶商品パッケージデザイン他

グラフィックデザイナーとしてデザイン業務に携わりつつ、

真鍮による立体造形表現も思案している



〈市之瀬の里 ブランディングデザイン〉 茶袋 2021



〈Shimanami Water リデザイン〉  
 ラベル 2021



准教授 (デザインコース)

## 黒田 教裕

1987年 宮崎県生まれ  
 2011年 武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業  
 2014年 武蔵野美術大学大学院造形研究科  
 デザイン専攻映像コース退学  
 2014～15年 武蔵野美術大学造形学部映像学科 非常勤講師  
 【活動歴】  
 2014年 「Media Ambition Tokyo 2014」  
 六本木ヒルズ52F 東京シティービュー  
 2015年 「New Creators Competition 2015」  
 静岡クリエイター支援センター CCC  
 2016年 「2016 CHANGWON ASIA ART FESTIVAL」 韓国・昌原市  
 2019年 「続々 三澤 通」ギンザ・グラフィック・ギャラリー (映像編集)  
 「松島オープンスタジオ」 岡山県倉敷市 松島分校美術館  
 (公開滞在制作)  
 「まにわ映像フェスティバル2019 勝山スクリーン・フィールド」  
 岡山県真庭市  
 「感覚のかたち」デザイン教員展 尾道市立大学美術館  
 2022年 漆 田代明樹男・映像 黒田教裕「物質と記憶」のトレモロ  
 三原市芸術文化センターポポロ  
 2025年 黒田 教裕 /Hidetoshi Koizumi・Ryuuta Tomiyama/  
 スギノ ユキコ/中山 莉瑠 映像作品展「G.E.F.G」  
 ソニーイメージングギャラリー 銀座



〈光風 - Quiet Shine〉 映像 20分ループ UHD30p 2023



講師 (デザインコース)

## 西原 美彩

1991年 広島県広島市生まれ  
 2014年 広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科卒業  
 2016年 広島市立大学大学院芸術学研究科造形計画研究修了  
 広島放送株式会社勤務  
 2018年 広島市立大学芸術学部  
 映像メディア造形研究室 非常勤助教  
 【活動歴】  
 2014年 短編アニメーション「男と青虫」  
 第2回新県美展 (広島県立美術館) 優秀賞  
 2015年 短編アニメーション「二十億光年のくしゃみ」  
 ICAF2015 上映  
 2016年 短編アニメーション「そぞろ」  
 ICAF2016 上映  
 2022年 短編アニメーション「鬼、布と塩」  
 第9回新千歳空港国際アニメーション映画祭 北洋銀行賞受賞  
 第31回CGアニメコンテスト 入賞  
 第24回DigiCon6JAPAN 奨励賞  
 日本アニメーション協会入会  
 2023年 幻想の神楽 西原美彩展 -鬼、布と塩- アニメーションとその周辺  
 第18回吉祥寺アニメーション映画祭 ジブリ美術館賞  
 広島文化新人賞 受賞



〈やつはな〉 試作アニメーション 1分 2026



教授 (日本美術史・博物館学)

## 市川 彰

1971年 愛知県生まれ  
 1995年 京都大学文学部美学美術史学専攻卒業  
 2001年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程 (美学美術史学専攻) 単位取得退学  
 2000～03年 萬野美術館学芸員  
 2004～07年 京都文化博物館総務課主事  
 2007～12年 京都文化博物館学芸課学芸員  
 【論文等】  
 1997年 絵描きの玉手箱 伊藤若冲の鶏  
 『茶道雑誌』第61巻第1号 河原書店  
 1999年 若冲画に示されたもの -「動植経絵」以前の三件の鶴を主題とする着色表現をめくって-  
 『研究紀要』第20号、京都大学文学部美学美術史学研究室  
 2007年 若冲画に示されたもの2 -《初期作品》「雪梅雄鶏図」をめくって-  
 京都文化博物館紀要『朱雀』第19集  
 2014年 名所図会に記された京都の「名宝」(一)  
 尾道市立大学芸術文化学部 紀要 第13号  
 【展覧会】  
 2008年 永樂即全『源氏物語五十四帖』と十七代永樂善五郎展  
 京都文化博物館企画展  
 2008年 『読む、見る、遊ぶ 源氏物語の世界～浮世絵から源氏意匠まで～』展  
 京都文化博物館特別展



准教授 (西洋美術史・美学)

## 西嶋 亜美

北海道旭川市出身  
 2006年 京都大学文学部人文学科卒業  
 2009年 京都大学大学院文学研究科修士課程修了・博士後期課程進学  
 2010～2012年 パリ・ソルボンヌ大学美術史考古学研究所招待研究員  
 2013年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程研究指導認定退学  
 京都大学博士 (文学)  
 【研究歴】  
 専門はフランス近代美術史で、画家ドラクロワやオリエンタリズムについて研究しています。  
 ・『ドラクロワの物語画と文学』三元社、2025年  
 ・『ドラクロワ作《キリストの埋葬(墓のキリスト)》(ボストン美術館) -新たな宗教主題表現の模索の成果として-』『京都美術史学』第5号、  
 2024年、1-36頁  
 ・『ウジェーヌ・ドラクロワの物語画と文学』京都大学大学院文学研究科課程博士学位論文、2016年  
 ・『ドラクロワの「モロッコ旅行記」試訳』『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第16号、2017年、69-86頁  
 ・『ドラクロワ「ブッサン論Ⅰ、Ⅱ」(1853年) 試訳』『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第21号、2022年、67-80頁  
 ・『19世紀中葉のパリで描かれた同時代の恋愛イメージールベ作《田園の恋人》とワルツの図像』  
 伊藤公雄・杉本淑彦編『ヴィジュアル・カルチャーの中の親密圏』京大出版会、刊行予定



美術学科では、卒業・修了制作展を開催しています。  
学部4年間、大学院2年間の集大成となる展覧会です。

学生時代の集大成としての卒業制作はとても重要なものですが、卒業制作はアトリエで制作して終わりではありません。

美術学科では、毎年、学部4年間、大学院2年間の制作・研究の成果を発表する機会として尾道市立美術館と尾道市立大学美術館で卒業修了制作展を開催しています。学生たちは展覧会の計画から広報活動、図録制作、展覧会運営、終了後の次世代への引き継ぎという一連の活動をカリキュラムの一環として経験することになります。例えば、毎年自分たちでカタログを制作し、関係方面に配布すると同時に、展覧会を訪れる方々に販売しています。このような展覧会の成り立ちを実際に経験することが、卒業後の活動の糧となることに期待しています。



日本画コース卒業・修了制作展優秀作品  
衆柚希 〈行く夏〉 卒業制作  
麻紙、岩絵具、膠 181.8×227.3cm



絵画研究分野(油画)優秀作品  
川口照栄 〈視点について〉 修了制作  
Premiere Pro, CLIP STUDIO PAINT サイズ可変  
展示会場：MOU尾道市立大学美術館



デザインコース卒業・修了制作展優秀作品  
小山里杏 〈日向帽子-ひなたぼっこ-〉  
修了制作 和紙、岩絵具、木、ペーパーコード

美術学科は今年度で25年目を迎え、多くの卒業生たちが専門業界で活躍しています。

そんな卒業生3名から近況をレポートしてもらいました。

卒業生はどのような活動をしているのでしょうか。学部卒業後大学院に進学し、さらに専門分野での制作を重ね、作家を志向する人がコンスタントにいます。

絵画系(日本画、油画)の卒業生の中には創作活動を継続するためにアルバイトをしながら生活している卒業生も毎年一定数いますが、近年増加しているのが、中学、高等学校の美術の非常勤講師です。中には複数の学校を掛け持ちで勤務している卒業生もいます。

デザイン系では、専門のスキルを活かして、広告代理店やメーカー、デザイン制作会社、映像制作会社、放送局、ゲーム制作会社などへの就職の他、イラストレーターやアニメーターとして制作を続けている卒業生もいます。



## 2018年 大学院美術研究科 絵画研究分野 日本画修了 大場 真美

【略歴】  
2016年 高知大学教育学部生涯教育課程芸術文化コース 卒業  
2018年 尾道市立大学大学院美術研究修士課程(日本画) 修了  
【受賞歴】  
2014年 第68回高知県美術展覧会  
褒状、高知県美術振興会奨励賞  
【同'15,'17~'22,'24,'25 入選】  
2015年 第35回高知県女流美術展覧会 青潮賞  
【同'17 青潮賞 '19,'21入選】  
2016年 第2回中土佐町立美術館大賞展 入選  
【同'19 奨励賞 '20 大賞 '24入選】  
2018年 第44回春季京都創画展 初入選【同'21,'22,'24 入選】  
2019年 第15回全国美術公募作品展ベラドンナ・アート展 入選  
2023年 第77回高知県展美術展覧会・日本画の部 特選  
第50回記念創画展 初入選【同'24 入選】

私は四年間、尾道ではなく地元の教育学部で美術教育を学びました。より深く日本画を学びたいという思いから、尾道市立大学大学院へ進学を決めました。二年間という短い時間ではありましたが、日本画の専門的な知識やその魅力はもちろん、先生方や友人たちの制作に向き合う真摯な姿勢から多くを学びました。

卒業後は地元の高知に戻り、教職や絵画講師の経験を経て、これまでの学びを生かせる仕事に携わっています。周囲の理解と協力に支えられ、制作も続いています。日々の忙しさに追われ、思うように時間が取れないこともありますが、日常の中でふっと湧き上がる「表現したい」という思いが、今も私を支えています。

学生の皆さん、この豊かな環境で自分なりの表現、または自分自身とじっくり向き合ってみてください。その経験はきっと、これからの自分を支える大切なお守りになってくれると思います。



〈傷の夢〉



〈か弱き獣〉



〈波の轍〉



〈傷の夢〉



〈波の轍〉



## 2024年 油画コース卒業

## ゲラルディ・サロモ・パンケレゴ

2024年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 卒業  
2026年 東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻 入学

2024年 グループ展「WANUA」北スラウェシ州視覚芸術展  
(インドネシア、トモホン市) 主催  
2024年 第17回 JCF 学生映画祭・入賞

大学卒業後、大学院受験をはじめ、さまざまなことが上手くいかず、1年間を反省の期間に充てました。行ったことのない場所へ行き、会ったことのない人たちと新しい絆を築きながら、制作から一歩も離れず、自分自身と真剣に向き合う時間になりました。今年再び大学院にチャレンジし、現在は東京藝術大学大学院映像研究科アニメーション専攻に入学し、アニメーション制作を続けています。

学部時代は油画コースに所属しながら、自主制作でアニメーションの表現を追求していました。留学生である私でしたが、卒業後も友人や先生方、そして尾道市民の方々からの温かいサポートや教えに、今でも深く感謝しています。尾道を離れた今も、日本にいつでも帰れる場所があると感じています。この5年間で、尾道でしか体験できない日々をたくさん過ごしました。観察し、体感することの大切さを、この豊かな環境の中で「裸眼」で学ぶことができました。

学生の皆さんには、感情に流されて判断するのではなく、今日という「今」と真摯に向き合う時間が何より大事だと伝えたいです。学生である特権を、ぜひ存分に活かしてください。



〈木の宝物〉 ガラスアニメーション 2025



〈死屍累々〉 木炭・模型アニメーション 2026



## 2021年 デザインコース卒業 小保 朋花

2021年 尾道市立大学芸術文化学部美術学科 デザインコース卒業  
2021年 株式会社アイディーエイ 入社  
2025年 尾道市立大学デザインコース非常勤講師に着任  
2026年 株式会社クラブズ 入社



デザイン実習  
講評風景



学生作品展  
ポスター



駄菓子屋ロゴデザイン事例

新卒でパッケージやブランディングのデザイン制作会社に入社し、尾道市立大学での非常勤講師経験を経て、現在は倉敷を拠点にデザイナーとして地方創生に携わるなど多角的な視点でデザインに従事しています。分野は広がりましたが、その原点にあるのは大学時代に夢中で取り組んだパッケージデザインやブランディングです。

プロとしての毎日は、学生時代よりもずっとスピードが速く、時にはクライアントの想いを形にする難しさに悩むこともあります。

クライアントの要望を汲み取りきれず、試行錯誤が続いて納期に追われる苦労も少なくありません。しかし、課題を解決した先に届く喜びの声や、自分のデザインが街に溶け込んでいるのを見た時にこの仕事を選んで良かったと感じます。

非常勤講師として学生の方と接する中で、「デザインを仕事にするのは難しい」という不安な声をよく耳にしました。私も高校生の頃は全く同じ気持ちでしたし、大学に入ってからも周り比べて自信を失い何度もデザイナーの道を諦めようと思いました。

でも、不器用でも諦めずに表現を磨きコツコツと続ければ、いつか自分らしく花開く時が必ずやってきます。

デザインの考え方は将来どんな道に進んでも人生を支える力になってくれるはずですよ。まずは自分の可能性を信じて楽しみながら一歩を踏み出してみてください。